

第 3 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 541-0043
住 所 大阪市中央区高麗橋4-1-1 興銀ビル
氏 名 株式会社 日本触媒
代表取締役社長 五嶋 祐治朗
(代理人) 常務執行役員所長 亀井 輝雄
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 10 条第 1 項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社日本触媒		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区千鳥町14-1		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☒ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	酸化エチレンおよび誘導品の製造		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量	92,351	k l
	☐ 自動車の台数		台
	☒ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	7,749	t - CO ₂

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度 ～ 平成30年度 (報告年度 平成30年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 http://www.shokubai.co.jp/ja/csr/report/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況(第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況(排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 183,061 (調) 175,675 t-CO ₂	(実) 182,311 (調) 174,455 t-CO ₂	(実) 185,177 (調) 177,223 t-CO ₂	(実) 195,064 (調) 185,481 t-CO ₂	(実) 184,157 t-CO ₂
削減率		(実) 0.4 % (調) 0.7 %	(実) -1.2 % (調) -0.9 %	(実) -6.6 % (調) -5.6 %	(実) -0.6 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	生産量		単位	t-CO ₂ /ton	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.2593	0.2347	0.2330	0.2340	0.2515
削減率		9.5 %	10.1 %	9.8 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	全体の設備稼働率が上昇し生産量が対基準年比で約10%増加したこと、その中でも蒸気発生型設備の稼働率が上昇したこと、さらに当該年度の省エネ案件を計画通り実行したことにより、排出原単位を対基準年比で約10%削減した。
第2年度	全体の設備稼働率が上昇し生産量が対基準年比で約12%増加したこと、さらに当該年度の省エネ案件を計画通り実行したことにより、エネルギー使用量を削減できたため、排出原単位を対基準年比で約10%削減した。
第3年度	全体の設備稼働率が上昇し生産量が対基準年比で約14%増加したこと、さらに当該年度の省エネ案件を計画通り実行したことにより、エネルギー使用量を削減できたため、排出原単位を対基準年比で約10%削減した。3年間の総括としては、第1年度の大幅な削減が功を奏した形ではあるが、毎年省エネ案を絞り出して計画的に実行したことにより、大きな排出原単位削減効果を得た。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況(全社目標)

中期RC基本計画を基に省エネ活動を進め、CO₂排出原単位0.407 t/t、エネルギー起源CO₂排出原単位0.199 t/tとなった。

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)	計 画	1. 排ガス及び蒸気ドレン以外の廃熱回収の管理 プロセス廃熱の性状、量、回収状況を把握し、廃熱回収が可能な場合、回収設備の設置を行う。 2. 冷凍機の成績管理 成績係数の確認を行い、成績係数の低い機器については、機器の更新等の検討を行う。
	第 1 年度	1. 排ガス及び蒸気ドレン以外の廃熱回収の管理 プロセスの改造を実施し、廃熱回収量増加対策を実施した。 蒸気ドレンの回収について対策を実施した。 2. 冷凍機の成績管理 昨年度COP管理機器を制定。本年度より運用を開始した。
	第 2 年度	1. 排ガス及び蒸気ドレン以外の廃熱回収の管理 プロセスの改造を実施し、廃熱回収量増加対策を実施した。 2. 冷凍機の成績管理 昨年度より運用を開始し、継続監視実施中。 3. 照明設備の運用管理 ランプの交換時期に合わせた節電型ランプへの交換を実施した。(追加実施)
	第 3 年度	1. 排ガス及び蒸気ドレン以外の廃熱回収の管理 プロセスの改造を実施し、廃熱回収量増加対策を実施した。 2. 冷凍機の成績管理 第1年度より運用を開始し、継続監視実施中。 3. 照明設備の運用管理 ランプの交換時期に合わせた節電型ランプへの交換を実施した。
自動車等 (第 3 号該当者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

再生可能エネルギー源等の利用について、現時点での計画はなし。

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	・物流業者との協力によるモーダルシフトの実施 一部製品の輸送を貨物鉄道輸送やパイプラインで行い、年間1,000 TのCO2排出量削減を行う。
第1年度	計画どおりに一部製品の輸送を貨物鉄道輸送やパイプラインで行い、約1,000 T/年のCO2排出量を削減した。
第2年度	計画どおりに一部製品の輸送を貨物鉄道輸送やパイプラインで行い、約900 T/年のCO2排出量を削減した。
第3年度	計画どおりに一部製品の輸送を貨物鉄道輸送やパイプラインで行い、約800 T/年のCO2排出量を削減した。

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. 廃棄物の減量化・分別化の推進を図る。 2. 川崎市「エコ運搬制度」への参加を行なう。 3. グリーン購入の検討を行なう。 4. 省エネ性の高い抽気蒸気を利用する。 5. コージェネレーションシステムの導入
第1年度	1. 廃棄物の分別は廃棄物ステーションを活用して実施徹底できている。 2. 「エコ運搬制度」に関しては2011年度から継続して活動中である。 5. コージェネレーションシステムはガス圧縮機の吸込圧力を上げることで動力を削減した。
第2年度	1. 廃棄物の分別は廃棄物ステーションを活用して実施徹底できている。 2. 「エコ運搬制度」に関しては2011年度から継続して活動中である。
第3年度	1. 廃棄物の分別は廃棄物ステーションを活用して実施徹底できている。 2. 「エコ運搬制度」に関しては2011年度から継続して活動中である。

様式第2号

(第6面)

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	188,502	t-CO ₂
(調)	178,103	

イ 第3号該当者等

(実)	t-CO ₂
(調)	

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎製造所	川崎市川崎区千鳥町14番1号	1631	石油化学系基礎製品製造業	188,502 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎製造所	川崎市川崎区千鳥町14番1号	1631	石油化学系基礎製品製造業	188,502 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--